

る。しかし、大切なのはその場で完結することではなく、今後の学習に指針を与えることであると思う。「ゆとりある教育」を実現するには、授業の中に生徒が自ら「考える」時間を作ってやらねばならない。教師にとつて大切なのは、細部にこだわらず、ポイントをつかませることである。何を教えて何を教えないか。その日のポイントをどこに置くか。生徒に学習の焦点を与える意味において、教材の精選は重要である。「わかりきった所を、わざわざ訳したり説明したりする必要はないと思います。スパッと抜かして、ポイントを押さえておいてくれると、あとで自分で発見があつて、楽しい」というのは、期せずして生徒が語つてくれた言葉である。

(三) 概要・要点の把握に徹する。

三年ともなると、かなりの長文を読みこなす力がついてくるが、長文であるだけに難解で不明な部分も少なくない。しかし、事柄の概要をつかむ形で長文全体の大意がわかれば、それで十分であると思う。

概要・要点の把握をするには、パラグラフフリーディングが必要となる。英語のパラグラフは、長短にかかわらず一つのアイディアに統一されているから、各パラグラフから一つずつアイディアを拾っていけば、速く読めるようになる。ところが、多くの生徒は、ワン・パラグラフワン・アイディアということを知らないため、一つ一つの

文と同じ比重で読んでしまう。その結果、焦点をしぼれず、アイディアをたどるリーディングができなくなる。パラグラフの構成に注意すれば、概要・要点の把握はそう難しいことではない。

(四) グループ討論をおりこむ。

勿論、毎時間この方法で授業をするわけではない。マンネリ化を避けるために適宜小グループによるディスカッションをとり入れている。この利点は、すべての生徒が話す機会をもつことができ、また、モデレーターを務めることによつて、司会のしかたと役割を学び、リポートすることによつて、討論の内容を要約する方法を学べるのである。さらに、与えられた課題を解決していくだけでなく、討論を通じてより深い人間関係の形成も期待される。授業の活性化という点でも、この方式は非常に有益である。

三、授業の実際

(教材・桐原書店発行「わたしの日本文化者」より)

(1) Introduction

英問英答の形で stereotype の意味と定義を確認したあと、身近なステレオタイプを数例紹介し、学習への関心を高める。

(2) Understanding

本文の要点把握に移る。

① Teacher's model reading (語りかけるような口調で)

Teaching procedure

1. Introduction

Aims	1 To motivate the students to study the topic of this period 2 To know what stereotypes are
Activities	1 Questions and answers 2 Referring to background information 3 Introduction of some stereotypes

2. Understanding (paragraph by paragraph)

Aims	1 To grasp the main idea 2 To learn some useful expressions
Activities	1 Teacher's model reading, giving advice to grasp the gist 2 Questions and answers 3 Explanation of some difficult points 4 Reading aloud (chorus, individual) 5 Silent reading 6 Check of understanding (EVALUATION 1)

3. Consolidation

Aims	1 To check the comprehension 2 To practice reading 3 To get further understanding of stereotypes through discussion
Activities	1 Check of understanding (EVALUATION 2) 2 Reading aloud (model, chorus, individual) 3 Small group discussion and Reporting
Homework	1 Summarization of the text in English (EVALUATION 3)